



## 米子市埋蔵文化財センターたより

第44号

2022年3月



### 米子城跡枅形の調査 ー新たな鏡石を確認ー



#### 新たに見つかった枅形の鏡石(向かって左)

米子市では、平成27年度より国史跡米子城跡の整備を目的とした発掘調査を行っています。

今年度は、二の丸枅形の地下に埋もれている石垣を基底部まで掘削して保存状態を確認したほか、石垣カルテの作成を行いました。

調査の結果、以前から枅形に入って正面の場所に見えていた「鏡石(かがみいし)」の3m左に、二つ目の新たな鏡石があることが判明しました。新しく見つかった鏡石は、高さ1.8m、幅2.1mの三角形で、石の中央上部には一か所だけ石を割るための矢穴が彫られています。

鏡石とは、城内に侵入してくる敵を威圧するために置かれたという説がありますが、米子城では二つの鏡石が睨みを利かせていたこととなります。

今後の整備では、枅形の石垣の一部を解体して石を積み直す修理を行うほか、今回見つかった鏡石をいつでも見るができるような遺構展示の方法を検討します。(佐伯)

## 発掘調査情報

### — 尾高城跡の試掘調査が開始 —

現在、米子市指定の史跡ですが、本丸と二の丸が未指定であり、今後の城跡全体の国史跡指定に向けて、2月～3月にかけて本丸と二の丸の試掘調査が行なわれました。

尾高城跡は、米子市尾高の集落東側に位置する大山山麓の西端丘陵上にある中世の城跡です。

地形を巧みに利用して築城され、西・北側を切岸で、東・南側を堀と土塁で防備を固めています。北から二の丸、本丸、中の丸、天神丸、背後に越の前、方形館跡、南大首など8つの郭を連ねる連郭式の城館跡で、戦国時代には西伯耆の要の城でした。

本丸は尾高城中で最大の郭で、土塁が南、東、西に残存し南東コーナーでは高さ4mを測ります。二の丸郭は本丸郭の北端にあり堀切で隔てられており、土塁が東と北に残存します。本丸と二の丸の間の堀切には自然石で積んだ石組が観察されます。泉水跡と伝えられていますが、試掘によってその様子が判明するのが期待されています。(小原)



本丸と二の丸の間の堀切

## 整理室たより

### 復元された遺物

—百塚88号墳の出土須恵器—

整理室では、発掘調査で出土した土器を中心とした遺物の復元作業を行っています。

今年度は、百塚88号墳調査と博労町遺跡第2次調査で出土した土器を対象に作業しました。

中でも百塚88号墳出土の須恵器は細かく故意に割ったと考えられており、墳丘の一カ所で集中して発見されていたので、かなりの確率で復元が可能と考えられました。残念ながら破砕された須恵器個体のすべての破片はありませんでしたが、接着復元作業によって、須恵器の坏、高坏を主体に100点強の土器が復元できました。復元された沢山の須恵器から、墳丘で行われた葬送祭祀の姿が彷彿とされます。(小原)



復元された須恵器の一部

## 遺跡シリーズ 茶畑遺跡群 (ちゃばたいせきぐん)

茶畑遺跡群は、西伯郡大山町(旧名和町)茶畑から押平、古御堂の大山北麓の標高 55m の台地上と開析された谷部に立地しています。

遺跡群は、茶畑山道遺跡、茶畑六反田遺跡、東高田遺跡、原古墳群、茶畑第 1 遺跡、茶畑古墳群、押平尾無遺跡、古御堂笹尾山遺跡、古御堂新林遺跡、茶畑第 2 遺跡の総称です。1979 年(昭和 54)から 2003 年(平成 15)の間に主に国道 9 号名和淀江道路の改築に伴って調査されました。



各遺跡からは弥生時代中期から古墳時代後期を中心とした集落跡が確認されています。茶畑第 1 遺跡掘立柱建物 12 復元模型(茶畑第 1 遺跡 2004 より)

注目されるのは、茶畑第 1 遺跡の弥生時代中期の独立棟持柱建物 12 と弥生時代中期から終末期と推定される布掘りの独立棟持柱建物跡 1 です。中期の独立棟持柱建物 12 は梁行 2 間、桁行 6 間で 30.5 m<sup>2</sup>、布掘り独立棟持柱建物 1 は梁行 1 間、桁行 3 間で 26.2 m<sup>2</sup>の規模で大型の建物です。

大型の独立棟持柱建物は、全国的に弥生時代中期後葉から後期にみられ、一般の倉庫や住居ではなく集落の中心的な建物として、祭祀や政治にかかわる建物と考えられています。(小原)

### コラム 発掘された遺物④

縄文時代後期は、4千4百年前から3千2百年前と考えられています。

山陰の後期の土器は、磨消縄文を特色とする文様を主体とします。

後期前葉は磨消縄文を基調とした J 字文や渦巻文の中津式土器、中葉は拡張した口縁と胴部に数本の沈線の曲線を付した布施式土器、巻貝の疑似縄文を付した権現山式土器、後葉は巻貝の押圧や凹線文を付した宮滝式土器です。器形は胴部が屈曲する深鉢や浅鉢形を呈するものが多く、波状口縁を持つものも見られます。(小原)

### —縄文時代後期の土器—



目久美遺跡の後期縄文土器図

## センター・資料館日誌

1月22日（土）こどもデイサービスわこう  
住吉で勾玉作り出前講座を開催  
した。



1月11日（火）中海テレビが埋蔵文化財セン  
ター等の取材で来館された。  
荒神谷博物館学芸員が借用遺物  
の返却で来館された。

1月26日（水）元興寺文化財研究所員が遺物  
保存処理遺物の返却で来館。

2月2日（水）福市企画展Ⅲ「古代の匠の技 -  
石と金属の道具」が開始された。



2月14日（月）尾高城跡の試掘が開始され  
た。

3月2日（水）東京大学の佐藤教授が旧石  
器の視察でセンターに来館した。

3月3日（水）鳥取県立博物館の福代学芸員が  
白山経塚遺物の借用で来館した。

3月4日（金）島根県立古代出雲歴史博物館の  
原田学芸情報課長が上淀廃寺壁画  
の借用で来館した。

3月7日（水）福市考古資料館企画展「昔の匠  
の技 - 石と金属の道具-」が終  
了した。

3月17日（木）文化財防災会議が研修室で開  
催された。

3月18日（金）島根県古代文化センターの角  
田氏がたたら遺物の整理指導で  
来館された。



3月28日（月）米子市歴史館運営委員会が市  
役所第2庁舎で開催された。

## 編集後記

2022年はコロナウイルスのオミクロン株が  
拡散し、全国的にも感染拡大して鳥取県西部で  
も感染者が多い日が続いています。センターの  
職員も不安な日々を過ごしています。

また、ウクライナにロシアが武力侵入し戦争  
となっており、ウクライナの人々が被災されて  
います。人命のほか歴史的な建物などの多くの  
文化財も失われていくのではと心配していま  
す。

一日も早くコロナウイルス拡散と戦争が収ま  
るよう祈っています。

発行日 令和4年3月28日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者（一財）米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp